

会 議 録（確定稿）

会議名称	第四次西東京市地域福祉活動計画 第4回策定委員会
日 時	平成30年2月26日（月）午後7時～8時30分
会 場	田無総合福祉センター2F 視聴覚室
出席者	(策定委員) 小林委員・小松委員・熊田委員・坂口委員・多田委員・海老澤委員 三輪委員・鈴木委員・伊東委員・藤島委員 (事務局) 池田・丸木・鶴野・小平・浜名・妻屋・小口・齊藤・本間 (コンサルタント) 志村<株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所>
欠席者	中村委員・伊田委員・横山委員
配付資料	資料1 「第3回策定委員会」会議録（未定稿） 資料2 第四次地域福祉活動計画「市民アンケート調査」結果報告書（案） 資料3 「市民アンケート調査」第3回策定委員会 分析・意見 資料4 「市民アンケート調査」集計結果にみる取り組み概要（案） 資料5 第4期地域福祉計画「市民アンケート調査」結果報告資料 資料6 「保健、医療、福祉関係者懇談会」開催報告資料 資料7 「保健、医療、福祉関係者懇談会」意見とりまとめ資料 資料8 「地区懇談会」（市・社協合同開催）開催 資料 資料9 第四次地域福祉活動計画策定委員会「平成29年度の取り組み」 資料10 「平成30年度 計画策定スケジュール」案 資料11 西東京市における計画
次 第	1. 第3回（平成29年12月12日開催）会議録の確認について 2. 第四次西東京市地域福祉活動計画策定のための「市民アンケート調査」最終報告 3. 懇談会の実施について (1) 保健、医療、福祉関係者懇談会の実施報告について（社協独自開催） (2) 地区懇談会 実施報告について（市・社協合同開催） 4. 第四次地域福祉活動計画策定に係る「平成29年度の取り組み」について 5. 平成30年度第四次地域福祉活動計画 策定のスケジュールについて (1)計画策定スケジュール案について 6. その他
決定事項	・ ・
会議の内容 及び 主な発言	※次ページの通り

## 会議の内容及び主な発言

### 1. 開会

- ・池田事務局長より挨拶
- ・資料確認
- ・副委員長より挨拶

### 2. 議事

#### (1) 第3回（平成29年12月12日開催）会議録の確認について

【質疑・検討事項等】

（委員）

- ・会議録を確認する際に自分がどこを発言したかが分かりづらいため、原稿の確認段階では発言者が分かるようにすることはできるか。

（事務局）

- ・そのようにしたい。

#### (2) 第四次西東京市地域福祉活動計画策定のための「市民アンケート調査」最終報告

##### ① 第四次西東京市地域福祉活動計画策定のための「市民アンケート調査」最終報告

- ・事務局、コンサルタントより資料2、3、4に沿って説明

【質疑・検討事項等】

（委員）

- ・資料4『「市民アンケート調査」集計結果にみる取り組み概要(案)』については、資料2のアンケート報告書の中に組み込むことを想定しているか。

（事務局）

- ・アンケート報告書におけるさまざまな意見をまとめた資料「概ねの内容」を作成、提示するものである。本編に組み入れることは想定していない。
- ・本日、報告書の最終報告をするにあたり、その説明のための付随資料として考えている。

（委員）

- ・アンケート結果のまとめの文章は重要な資料になるので、きちんと内容を議論した方がよい。

（委員長）

- ・この結果をどう見るかを議論していく。また、取り組みとして足りないであろう視点を今後議論していくことになる。これで完成というわけではないと理解している。

##### ② 第4期地域福祉計画「市民アンケート調査」結果報告

- ・事務局、コンサルタントより資料5に沿って説明

【質疑・検討事項等】

（委員長）

- ・資料5「第4期西東京市地域福祉計画 市民アンケート調査」結果報告資料8ページの「ほっとするまちネットワークシステム（ほっとネット）」について、市や社協が中心になって一所懸命取り組んでいるが、「名前も内容も知らない」が73%となっており、生活する中でその支

援が必要なくて知らないのか、必要だけれども知らないのか、これを今後どう解釈していくか。地域包括支援センターについては、「名前も内容も知っている」「名前を知っており、内容も少しは知っている」を合わせると約 40%になることを考えると、これだけ知られているということになる。ますます、情報をどう届けていくかがポイントになってくる。

(副委員長)

- 一般的にどの地域でも取り組んでいる事業等についてはある程度周知されているが、社協独自の名称で取り組んでいるものについてはニーズの有無に関らず知られておらず、周知をどうしていくかは今後の課題である。

### (3) 懇談会の実施について

#### ① 保健、医療、福祉関係者懇談会の実施報告について（社協独自開催）

#### ② 地区懇談会 実施報告について（市・社協合同開催）

- 事務局、コンサルタントより資料6、7、8に沿って説明

【質疑・検討事項等】

(委員)

- 資料6と資料7の読み解き方についてであるが、資料7「保健・医療・福祉関係者懇談会意見とりまとめ資料」を資料6「保健・医療・福祉関係者懇談会の開催について」（フェイスシート及び意見の概要）にまとめたものと思うが、どこの部分をどのようにまとめたのか。今後この資料をもとに策定を進めていくのか。

(事務局)

- 資料6については、資料7に掲載している内容を資料全体を通じてまとめている。事前アンケートでは社協に期待する部分、市民に期待する部分が明確にされていたが、実際の話し合いの中では、どこが何を担う等厳密に役割分担を明確にせず話しあった部分もあるので、懇談会全体を通じてまとめさせていただいた。
- 資料6のまとめ（概要）は、資料7の「意見とりまとめ」のうち「課題の解決に向けた取り組みの検討」以降をまとめたものである。

(委員)

- 資料7の最初の方は事前アンケートをまとめたもので、14 ページ以降に懇談会の内容が載っている認識でよろしいか。

(副委員長)

- 資料7の9ページのワールドカフェ形式での検討結果も当日の検討結果であり、事前アンケートで出してもらったものをワールドカフェで意見を出し合い、それを受けて解決に向けてどのようなことができるかを話し合ったことがフィッシュボウルの結果にまとめられている。そこで出てきた解決の取り組みを資料6の右側にまとめている。素材として資料7には全ての意見が入っており、それを事務局で抽出したものが資料6なので、必ずしも委員の皆さんの関心が資料6に入っているわけではない。
- 市・社協合同開催の地区懇談会についてもうかがいたい。参加者の年齢構成はどうなっていたか。

(事務局)

- 年齢的には高齢の方が多かった印象がある。一方で、子育て中の方や男性の方にもきていただき、活発な議論をしていただいた。

(委員長)

- 地域のつながりが薄い、弱いといった意見が各圏域で出ているが、これは社協がずっと取り組んできていることではある。一朝一夕でできることではないが、参加した人が、地域のつながりがあると感じていないというのは重要な指摘である。
- 居場所づくりについても社協は一所懸命取り組んできたことである。懇談会では、居場所はたくさんあるが、行きたい居場所がないという意見が挙げられており、量を拡充していくことはもちろん、質の部分はどう考えていくか。同じような居場所を増やすのではなく、使いたい人のニーズを拾い、どう多様化を図っていくかが大事になってくる。
- 相談について、ほっとネットを中心として取り組んできたが、どこに相談していいかわからないといった意見がアンケートでも懇談会でも挙げられている。
- 特に懇談会では移動や買い物課題についての意見が出ている。市の第3期計画策定時の懇談会の中でもでていた意見である。今後の社会福祉を考えると移動・買い物は明らかに問題として出てくるので、移動手段の問題等は、都市計画の分野だけでなく、この地域福祉活動計画や地域福祉計画の中でも、何ができるかをとり上げていかなければならない。
- 新しい課題ではなく、今までの課題が改めてでてきており、前の計画でも取り組んできたことではあるが、検証しながら新しい計画の柱を考えていくことが必要である。

(委員)

- 南部圏域の地区懇談会に参加させていただいたが、全体発表会では椅子が足りなくなるくらい来ていただいた。皆さんから、生きていくための生活環境について切実な問題を地域の代表として出していただいた。西東京市は以前住んでいた小平市に比べて坂や行き止まりの道が多いと感じていたが、そういった声を全部参加者から出していただいた。まとめるのは大変だが、住民の生の声を出していただいたということで、これからの討論に意義があると感じた。

(委員)

- 全体の発表会で中部圏域のグループに加わったが、印象に残っていることは、サロンやコンテンツの充実化について、これだけいろいろな方が西東京市で居場所づくりに取り組んでいて、もっと多くの方が参加できるよう内容の充実に向けていかなければいけないとコメントした。学生の学習できる場所などがあるといろいろな方が参加しやすくなると感じた。

(委員)

- 圏域ごとで意見を集約していることに面白さを感じた。市の都市計画分野「人にやさしいまちづくり推進協議会」に関っているが、西東京市でもひばりが丘など開発が進んでいるところがあり、そこには医療機関や買い物ができるような場所ができています。南部圏域で、スーパーが閉店してしまうところもあり、買い物難民について指摘されていたが、西東京市の中で、さらに買い物難民が増えてしまう可能性がある。人にやさしいまちづくり推進協議会でも検討しているが、地域福祉活動計画でも大きなキーワードになってくると思うので、そういった問題とも連動させていく必要がある。

(副委員長)

- 買い物支援は各地で取り組みがあるが、生協、自治会、企業、福祉系の法人などいろいろな担い手が協力して取り組んでいる地域も見られる。国が決めた買い物の範囲の規定もあるが、社協の地域福祉活動計画でニーズを拾ってどう事業化していけるかということに関わってくる。既存の事業ではなく、新規で取り組んでいくことも必要である。

(委員)

- 年齢的には高い方が多いと感じた。アンケートでも懇談会でも挙げられなかったこととして、人口が20万人を超えた中で外国人の方も増えている。親の就労の都合で連れてこられた母国語が日本語でない子どもの支援をしている人もいる。
- 男女共同参画の観点からセクシャルマイノリティを子ども条例に含める検討がされているが、

そういった部分がどこからも意見として出なかったことが少し残念に感じた。

(副委員長)

- 国の方で「我が事・丸ごと」という言葉がでており、総ぐるみでの計画をつくっていくということが言われているが、この懇談会に出ている方の想像の範囲外の地域課題、福祉課題を拾っていくことをこの委員会でも考えていかないといけない。そうでないと従来の福祉課題に留まってしまう気がした。
- 地区懇談会では、福祉関係者懇談会のようなまとめ資料はでてくるか。

(事務局)

- 市からまとめ資料が出てくる予定である。

(副委員長)

- 資料はわかりやすくまとめていただいているが、深めていく上では必要であると思う。
- 両方の懇談会の中で「社協や市に期待すること」を聞いているが、「我が事・丸ごと」の考えを踏まえ「みんなで」という視点をもって、他人事になってしまわないようにすること、また新たな課題を拾っていく姿勢を持たないと従来の計画と変わらないものになってしまうと感じた。

#### (4) 第四次地域福祉活動計画策定に係る「平成 29 年度の取り組み」について

- 事務局より資料 9 に沿って説明

#### (5) 平成 30 年度第四次地域福祉活動計画 策定のスケジュールについて

- 事務局より資料 10、11 に沿って説明

【質疑・検討事項等】

(事務局)

- 資料 11「西東京市の計画」の補足になるが、第 7 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、健康づくり推進プランでは、地域とのつながりがそれぞれの計画共通の課題として出てきている。社協に関わる部分としては、介護支援ボランティアの充実や共生社会の実現などが謳われている。健康づくり推進プランではライフステージ別健康づくり 5 か条が示されており、地域とのつながりが重要であるということが特徴となっている。こういったことを地域福祉活動計画と連動してどう取り組んでいくかをご検討いただきたい。

(副委員長)

- ここからキーワードをどのように抽出して肉付けをしていくかは皆さんにも相談しながらやっていきたい。

(委員長)

- 先ほど意見として挙げられた「生きていくための生活環境をどう考えていく」という投げかけについて、地域に人が暮らしている視点を持ちながら計画を作っていく必要があることを本日改めて感じた。「生きていくために生活環境をどうしたらよいか」「そのために地域福祉活動計画でできることは何か」を今後考えていければと感じた。

(委員)

- 居場所はたくさんあるが、アンケートで居場所が足りないと意見が出ていることは、どういったことだろうと感じた。「居場所ってなんだろう」とみんなが思えるような認識になるとよい。居場所がたくさんあって、作っていけるまちであると思うが、それを選ぶ根拠となるものが分からない、いっぱいありすぎてわからないという人が多い。居場所に来た人の中でも、よくわからないけど来た人、勧められて来た人などもおり、居心地が良ければ続くし、一回限りで来

なくなってしまう人もいる。誰が来ても良い場所はニーズもなかったりする。数をたくさん作らなくても、行きたいと思える居場所をたくさん作ることが第2の検討事項であると思う。やっている側もずっと同じやり方ではなく、今まではやることで精一杯だったが、やり方を少し変えてみようという発言も出てきている。助成金をいただけることで、心が潤ってくると、そういうことにつながってくると思う。

(副委員長)

- 居場所と一言で言っても、子どもの居場所や外国人の居場所などでイメージは違うし、場所のことなのかコミュニティのことなのかでも違ってくる。いろいろなキーワードが出てきているので、活動計画に入ってくるものは時間をとって話し合ってみてもいいのではないかと思う。

(委員)

- 市の障がい児・者対象の計画としては障害福祉計画と障害児福祉計画が作られており、障がいのある子どもの視点もある。「我が事・丸ごと」を踏まえ、弱者の視点も入るとよい。

(委員)

- 他市の委員会も出ているが、計画をつくるためにこれだけ市民の意見を集めているのも珍しいと感じた。とりまとめるのは大変だが、来年度の計画づくりが楽しみである。

(委員)

- アンケートについて、認知度の問いで、地域包括支援センターも当初は認知度が低く、利用も低かったが、この結果を見ると、続けることが大事だと感じる。急激に認知度が上がり、ニーズが増えるとは思わないが、良いことは長く続けていただくと良いと思う。

## (6) その他

- 事務局より「ささえあいフォローアップ研修」の告知の説明